

水曜通信 22

東北学院大学研究ブランディング事業通信
「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」

2019年
5月

第22回水曜礼拝（公開大学礼拝） 2019年5月15日（水）18:30-19:00

— 英語礼拝 —



説教：ランダル・ザッカマン

（ランカスター神学校講師、ノートルダム大学名誉教授）

奏楽：小野 なおみ（本学礼拝オルガニスト）

<礼拝次第>

前 奏：C-M. ヴィドール

「オルガン交響曲」より 3.カンティレーヌ

讃美歌："Come, Thou Fount of Every Blessing",
Psalter Hymnal # 314

聖 書：Acts 11:1-18

「使徒言行録11：1-18」

説 教："The Freedom of the Spirit."「御霊の自由」

讃美歌："For All the Saints,"
Psalter Hymnal # 442

後 奏：聖歌「復活のいけにえに」
Victimae Paschali Laudes」

後奏の後、30分間の東北学院宗教部聖歌隊、グリークラブ、キャロラズ合同による合唱での賛美を行ないます。

次回第23回水曜礼拝は6月19日です。

第21回 水曜礼拝報告（説教：野村 信、奏楽：小野 なおみ）

2019年4月17日(水) 18:30-19:00

讃美歌：38番「わが霊のひかり」
聖書：ルカによる福音書 第5章 1-6節
讃美歌：361番「主にありてぞ」
説教：「沖へ漕ぎ出しなさい」
頌栄：543番「主イエスのめぐみよ」



【説教要旨】

本日は主イエスが弟子たちを招いて宣教の旅へ向かう様子を見て、出発について考えてみたいと思います。特に印象的なことは、主イエスは、どこにでもいる身近な人々を招かれます。しかもいつも誠実に自分の仕事をしている人に働きかけられます。漁師である彼らに告げる言葉は、「沖へ漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい」です。不漁で、疲れている漁師たちは、その声に従って網を降ろすとたくさんの魚がつかれました。その声は、「もっと深いところへ行って網を降ろしなさい」という意味が込められています。それは、また私たちの心の深いところへ関わる神の働きを感じざるを得ません。心の深いところで新たにされて私たちも出発したいものです。（野村信）

前奏：J.バッヘルベル「おお人よ、汝の罪の大いなるを嘆け」
後奏：J.S.バッハ「イエスよ、わが命の命よ」BWV1107



前奏、後奏共に受難節用のコラールを主題とした作品です。「おお人よ、汝の罪の大いなるを嘆け」の作曲者、ヨハン・バッヘルベルは南ドイツで活躍した作曲家・オルガニストです。J.S.バッハの長兄の教師でもあり、この兄を通してバッハはバッヘルベルの影響も受けています。「イエスよ、わが命の命よ」はバッハによるごく初期の作品集、「ノイマイスター・コラール集」からの1曲です。（小野なおみ）

礼拝とその後の19時00分から30分までのグリークラブOB会による合唱での賛美に34名（グリークラブOB会の20人を除く）の市民が参加されました。

礼拝後、グリークラブOB合唱団による合唱での讃美

指揮：佐藤雅英（経済学部経済学科1973年卒）

1. 讃美歌312番「慈しみ深き」
2. 讃美歌21 575番「球根の中には」
3. Steel away (以下、黒人霊歌；恩師V.C.Searle編曲)
4. Nobody knows de trouble
5. Deep River



現在活動しているOB合唱団は、昭和30年初めより、OB会の組織内の会員が臨時、任意、参加型のまま合唱活動をしておりました。そこで正式に平成になり、『東北学院大学グリークラブOB合唱団』を組織し、定期練習日を計画して活動を続けようという機運が高まり今日まで活動を継続して参りました。特に、恩師V.C.Searle先生が編曲した黒人霊歌・宗教曲・日本歌曲・童謡等他、数多くの作品を歌ってきました。学生時代は、定期演奏会・恒例の北海道・東北演奏旅行にて各地、高校・中学・での演奏会を行い、東北学院大学グリークラブの名を広めて参りました。これからも歌い続けて行きたいと願っております。

（グリークラブOB合唱団 竹花秀昭）

“FAITHFUL UNTO DEATH” (5)

「金子謹三の急逝」



神学生の金子謹三

入院先のセント・ジョセフ病院には、金子の重体を知った教授や友人たちが駆けつけました。金子は、穏やかな微笑みと謝意をもって迎え、恩師のガスト教授に「アメリカに埋葬されたい」との希望を伝えました。1895年5月15日早朝、金子は29歳の若さで天父のもとに召されました。

5月17日、ランカスター神学校の礼拝堂で行われた葬儀では、F&M大学と神学校を通じて金子を慈しみ育てた恩師のアップル教授と、賜暇帰国中のホーイが弔辞を述べました。アップルは、10年を越える金子の勤勉と労苦はいったい何のためだったのだろうかと問いながらも、彼が祖国の伝道に懸けた夢と祈りはけっして虚しくは終わらないだろうと結びました。

果たして、異郷の地での金子謹三の「英雄的」な死は、ドイツ改革派教会全体に大きな感動を巻き起こし、間もなく開かれた年次総会では金子の名を付した「金子記念基金」を募る動議が採択され、募金が開始されました。(続く)

(東北学院史資料センター 日野哲)



ランカスター神学校礼拝堂

英国ステンドグラス調査報告

3月5日から14日まで、ヒートン・バトラー&バイン (HBB) 工場のステンドグラス作品を求めて6つの教会を訪ねました。レスター大聖堂とその近郊のワットンとウィングの教会、チェスター大聖堂とポート・サンライトとデイルウインの教会です。ロンドンのウェストミンスター大聖堂にも作品はありますが、撮影は不許可。レスター大聖堂には『昇天』ほか6つの窓がHBB工場の制作になり、HBB工場への信頼がうかがえます。HBB工場のステンドグラスの研究はイギリスでも行なわれていず、まずは記録に残る膨大な数の全作品(イギリスに1300点、アメリカに240点、その他、日本を含む外国に15点)から現存し調査可能な教会を把握せねばなりません。レスター大聖堂の『昇天』ステンドグラスは、背景の処理がまだ装飾的で、そこが我が学院の『昇天』ステンドグラスと違います。見通しでは、HBB工場のステンドグラスは名実ともにイギリス19世紀のステンドグラスの典型で、様式の無名性が際立っています。5月中に報告会を開催する予定です。(鐸木道剛)



レスター(Leicester)大聖堂の
『昇天』のステンドグラス
2019年3月7日撮影

— ランカスター神学校での発見（7） —

「ランカスター神学校の食堂のステンドグラスについて」



2018年8月2日撮影

ランカスター神学校には1932年に建てられた食堂（Refectory）があります。そこには窓が15枚。それぞれの窓のガラス絵には改革派のキリスト教の歴史を示す様々な紋章があります。最後の一枚が宣教の歴史を示す富士山であり、それは昨年12月の訪問記録の際に紹介しました（『水曜通信』第9号）。今回調査のためにランカスター駅に到着したのは昨年8月2日の昼過ぎ。神学校で宿舎に入り、まずは昼食ということで、この食堂に行きました。そこで富士山と並んで、最初一枚が

眼に止まりました。縦に「光（ΦΩΣ、つまりLight）」、横に「命（ΖΩΗ、つまりLife）」が組み合わされたものです（左図）。それに「愛（ΑΓΑΠΗ、つまりLove）」があれば、わが学院の「3L」です。食堂のご主人からいただいた説明文には、このデザインは古代エトルスキの貨幣に由来するとあります。わが「3L」は、アメリカのドイツ改革派の月刊誌『ザ・ミッショナリー・ガーディアン』の表紙から取ったと佐々木前院長先生からうかがいましたが、さらに異教古代までさかのぼる可能性がでてきました。ランカスターに到着してまだ2時間。最初の発見でした。（鐸木道剛）

共催シンポジウム・講演会のお知らせ

◆文学部総合人文学科主催 シンポジウム

「苦難と救済 一闇の後に光あり（post tenebras lux）—」

日 時：2019年5月18日（土）13：00－16：30

会 場：土樋キャンパス ホーイ記念館ホール

講 師：野村信（本学文学部教授、本学宗教部長）

ランダール・ザッカマン（ランカスター神学校講師、ノートルダム大学名誉教授）

吉田隆（神戸改革派神学校校長、日本キリスト改革派甲子園教会牧師）



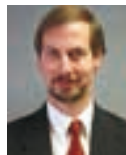
◆文学部総合人文学科主催 ファカルティ・フォーラム

「苦難の学舎で神の愛を習う—キルケゴール、苦難を通して神と親しむ—」

日 時：2019年5月20日（月）15：00－16：30

会 場：土樋キャンパス ホーイ記念館3階 H302教室

講 師：ランダール・ザッカマン（ランカスター神学校講師、ノートルダム大学名誉教授）



文部科学省私立大学研究ブランディング事業とは：

学長のリーダーシップの下、大学の特徴ある研究を基盤として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学に対し、施設費・装置費・設備費と経常費を一体的に支援するもので、各大学の特色化・機能強化の促進を目的としています。東北学院大学は、「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」との事業名で平成28年11月22日に採択されました。

東北学院大学研究ブランディング事業通信
第22号

2019年5月10日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

TEL：022-264-6547

E-mail：branding@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

URL：http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/theology/